

令和6年(2024)度研究助成採択者の言葉；スポーツと地方創生
富山浩三(大阪体育大学)

このたびは、令和6年度大阪体育学会研究助成に採択頂きありがとうございました。今回頂きました助成を活用して、スポーツイベントの開催によって生まれる社会的な効果について、特に地域愛着をキーワードに研究に取り組みました。我が国では1993年にJリーグが開幕しましたが、Jリーグクラブはヨーロッパ型の地域密着型のスポーツクラブ運営を目指しており、スポーツと地域コミュニティとの関係が注目されるようになりました。また、近年では人口減少によって特に地方の街が多く課題を抱えています。スポーツイベントの開催やスポーツツーリズムの活性化により地方創生に取り組む自治体が増えており、ここでもスポーツと地域との関係の解明に関心が高まっています。私は1995年に始まった総合型地域スポーツクラブ設立のモデル事業に関わったことをきっかけにコミュニティスポーツ研究に取り組むようになり、近年ではスポーツがもたらす社会的インパクトについて研究を行っています。

今回は、スポーツイベントの開催と参加した人々の地域への愛着について分析を行いました。多くの場合、住民は住んでいる地域に愛着を持っていると思いますが、それは地域で過ごす中で様々な出来事や思い出から生まれているものだと考えられます。「スポーツイベントやスポーツ活動に参加することによって地域への愛着が生まれるのか。」これが研究のリサーチクエスションです。地域資源としての公園や文化施設、地域の人々とのソーシャルキャピタルの構築などによって地域への愛着が深まると言われていますが、スポーツに参加することによって体育施設や公園などの施設に触れ、地域の人々同士のふれあいが生まれることによるソーシャルキャピタルの向上によって、スポーツが地域への愛着を生み出すのではないかと考えています。地域愛着の向上は地域をよくする活動への積極的な参加や、行政効率の向上、犯罪の抑制などに効果があると言われていますので、スポーツによって地域愛着を高めることができれば、スポーツによるまちづくりのエビデンスを提供することができます。スポーツが、地域活性化のツールとしてこれからも活用されることを期待しています。